



カラフルな「プリント包帯」の開発

負のイメージが強い医療用具の「包帯にプリント」を施し、**明るさや癒し効果**という付加価値をつけた包帯を開発。平成 23 年夏に製品発表を行ったばかりであり、まだ販売実績はないが、展示会等における、医療関係者の反応は良く、特に小児科の看護師の方々の反応に好感触を得ており、今後の受注動向に期待したい。

業況等の動向について

本業の動向について

(細巾テープ・リボン)プリント加工・機能加工・染加工、シリコン加工、プリントネーム製造販売を主業としている。

現在の業務比率としては、テープ印刷が 80%程度、プリントネームが 20%程度で操業している。

業況的には、2011 年春までは(この 2~3 年)不調であったものの、2011 年 7 月以降からは、やや好調に推移しており、現在の受注状況は 2~3 割アップしており好調に推移している。

異業種参入事業の概要

デザイン性に富んだカラフルな「プリント包帯」の開発、製造。負のイメージが強い医療用具である包帯にプリントを施し、明るさや癒し効果という付加価値をつけた包帯の開発。

業況的には、平成 23 年夏に製品発表を行ったばかりであり、まだ販売実績はない。

しかし、ふくい産業支援センターの『ふくい元気企業フェア』において、好評価を得ることができ、また、幕張でのホームセンターショーにおいても、同様の評価を得、問い合わせ等も増えており、今後の受注状況には、ある程度の期待が持てる状況である。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

当社では、細巾テープ・リボンに“ちょっとしたプリントを”をスローガンに既存の製品でメディカル製品(サポーターなどへの)プリント加工を行っており、以前より包帯にプリント加工を施すことに着目していた。

しかし、医療用品ということで、プリントを施すなどの加工に対しては、「規制等が厳しいのでは」との思いもあり、包帯へのプリントはためらっていた。

たまたま、包帯メーカーの「腰痛ベルトにプリント加工をして欲しい。」との依頼があり、その際に、包帯のことを話したところ「包帯への規制等はクリアできる」と情報を得て、「カラフル包帯」を開発するに至った。

マーケティングについて

ふくい産業支援センターが開催した『ふくい元気企業フェア』へ出展した。また、『幕張におけるホームセンターショー』への出展などで来場者の反応を見てみた。両展示会においても、医療関係者の反応が良かった。特に、幕張のショーにおいては、小児科の看護師の方々の反応に好感触を得た。

参入に際しての投資について

サンプル用の包帯の仕入れ代等に 200 千円、プリントの型等に 100 千円、そのほか展示会出展費用などで、総額 2,000 千円程度を投資した。

参入して最も成果のあがったこと

既存の製品群以外にも目を向けることが出来た。また、アパレル以外の業種に目を向けることができたのも、成果といえる。

参入して最も困難だったこと

染色の工程において必ず「洗い」という作業があり包帯という柔らかい繊維の腰が折れてしまうことがあり苦労した。

今後の見通し・展望

プリントの柄も既に幾種類か出来ており包帯の種類も伸縮性以外にも広げていく考えである。まずは小児科・整形外科の開業医やクリニックへの販売計画を立てている。

メリット・デメリット

細巾テープ、リボンテープへのプリントの可能性が広がり、また、既存とは違う業種への販路の拡大につながる。

リスクが高いのは当然である。自社ブランドとして市場に売り出す以上、製品に対しての責任が重くなる。

異業種参入時のアドバイス

やってみないことには何も分からない。他社が真似の出来ない特徴のあるものを作る。自社ブランドを持たないと、勝ち残れない。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度
ふくいの逸品創造ファンドの活用。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

ふくい逸品創造ファンドの範囲の拡大(販促活動以外にも使用できるような)。設備投資などにも使用できるような支援。繊維業界全体が活性化できるような支援。

会社概要

設立:1961年8月

資本金:500万円

従業員数:15名

U R L : www.maeda-n.jp